



経営権の継承に成功する「隠居派」社長

事業の継続には資産の継承と経営権の継承が伴うが、経営権の継承は難しい！！

社長というのは俗物の極みである。人並み外れて欲望が強い。金を儲けたい、贅沢をしたい。こうした欲望が強い人が独立して事業を起こす。こうした欲望が強い人ほど努力を惜しまず働いて勝ち残る。

このような社長にも大きく二つのタイプがあるように思われる。

一つは労を厭わず朝から晩まで働き続ける「現場派」社長。何もかも自分でやらないと気が済まないタイプである。細かく指示を出し、細かく報告を求め、頭も身体も常にフル活動している。このタイプには業界会合など外の活動に夢中になっている「名士派」や会社を放り出して遊び回る「享楽派」も含まれる。

もう一つは、そこそこ儲かって事業が軌道に乗ったら、今度は楽をしたい欲望が無性に強くなり、どうすれば楽ができるかばかり考えるようになる「隠居派」社長がいる。現実にはこの「隠居派」社長が組織づくりに成功している。隠居派社長は絶えず仕事をしてくれる人を捜している。人がいなければ出来る人を育てている。自分がしていることを代わってしてくれる人を作る努力を不断にやっているのである。こうした社長が強い組織を作り、経営権の継承に成功している。

